

# 「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム(仮称)」 プロジェクト

平成27年4月3日



文部科学省

# 「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）」プロジェクト

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、観光とも連動させつつ、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとしての国際会議「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）」を、2016年、リオ大会直後の秋に京都（10月19日）と東京（10月20日～22日）で開催。

## 連絡調整会議

日本政府、経済団体、地方公共団体

世界経済フォーラム、ダボス関連企業

### スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）

（文科省を中心に日本政府が主体となって経済界、地方公共団体と連携して開催）

#### 国際イベント

- スポーツ・フォー・トゥモロー（各国スポーツ担当大臣会合の開催）
- 2019年ラグビーワールドカップ（開催地とも連携した会議の開催等を検討）
- スポーツ・インテグリティの推進（WADA関連会議の開催を検討）
- 2020年オリンピック・パラリンピック文化プログラム

#### ワークショップ

- WEFをはじめとした民間団体等と連携して、アスリートやアーティスト、民間企業経営者等とともに、社会課題や「道」の精神、文化プログラム等を議論

#### 文化イベント

- 世界のトップアーティストと日本のトップアーティストのコラボレーションによる各国の伝統文化が融合した斬新なパフォーマンスの披露など、新たな芸術の発信
- 世界遺産である神社・仏閣、美術館等を舞台に、日本人及び外国人芸術家によるコラボレーション・パフォーマンスの発信

スポーツ・文化関係の連携

### ダボス若手メンバーの会議 （世界経済フォーラムが開催）

- （想定する参加者）
- ヤング・グローバル・リーダーズ（YGL）
  - グローバル・シェイパーズ・コミュニティ（GSC）

アーティスト等の人材・ノウハウの提供

ディスカッションテーマの提案・ジョイントセッションの開催



スケジュール

準備室の設置

官民合同の  
実行委員会  
立ち上げ

官民協働で  
開催準備

リオ大会

スポーツ・文化・  
ワールド・  
フォーラム開催

スポーツ・フォー・トゥモローの更なる推進

日本全国津々浦々で文化プログラムを実施

ラグビー  
W杯

東京  
大会

2015年4月

夏頃

2016年8月～9月

10月

2019年

2020年1










## スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）の趣旨・期待される波及効果

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、観光とも連動させつつ、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形のレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベントとしての国際会議「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）」を、2016年、リオ大会直後の秋に京都（10月19日）と東京（10月20日～22日）で開催。

### 【フォーラムをキックオフとして今後期待される波及効果】

- 日本全体の「スポーツと文化の祭典」である**2020年東京オリンピック・パラリンピック、さらに2030年に向けて**、史上最大規模で魅力あるプログラムを全国的に展開する**一連の活動のキックオフとして、スポーツ立国、文化立国、観光立国の実現**《訪日観光客の拡大》  
【2020年に2000万人、2030年に3000万人達成】
- 官民協働による、世界のトップアーティストと日本のトップアーティストの融合等による**世界の人々を惹きつける斬新な文化イベントを開催**するとともに、観光立国実現に向けたアクション・プログラムやビジネスマッチングイベントと連携し、**都市の魅力向上**  
【全国で20万件のイベント、5万人のアーティスト、5000万人の参加】
- 東京のみならず、全国各地にあるキャンプ地等のホストシティにも、スポーツ・文化の両面で大会の効果を波及させるとともに、**地域の世界遺産・日本遺産等の文化力を積極的に活用するなど地方創生の推進**  
【東京大会の経済効果は全国で2兆9600億円】
- 世界経済フォーラムと官民との連携による**、スポーツ・文化芸術の発展による**新たな産業の創出**や、スポーツ・日本古来の文化（道）等の日本文化の魅力、成長戦略と連動した日本ブランド等の**海外への積極的な発信**《対日直接投資の拡大》

# スポーツ・文化・ワールド・フォーラム（仮称）の日程及び会場候補（案）

2016年10月	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)			22日(土)	23日(日)
スポーツ・文化・ワールド・フォーラム		 会議 (京都)		 スポーツフォー トウモロー(SFT) 全体会議	 スポーツ インテ グリティ	 官民協働WS オープニング セッション	 9:00 クロージング 各会議の議長等 から議論内容の 総括	
		※内容については文 化関係を中心に京都 府等と協議しながら検 討		12:00 ランチ			閉会挨拶	
			14:00  オープニング 基調講演 (スポーツ) 基調講演 (文化)	14:00  SFT 分科会①	SFT 分科会②	 ラグビー ワールドカップ	 官民協働WS 民間団体等と連携して、 アスリートやアーティスト、 民間企業経営者等とともに、 社会課題や「道」の精神、 文化プログラム等を議論	
		18:00 移動	18:00 移動	18:00 移動				
	19:00 立食夕食会	19:00 公式夕食会	19:00 立食夕食会					
	文化イベント (世界遺産を活用)		文化イベント(六本木を中心に都市全体で実施)					

 京都会場

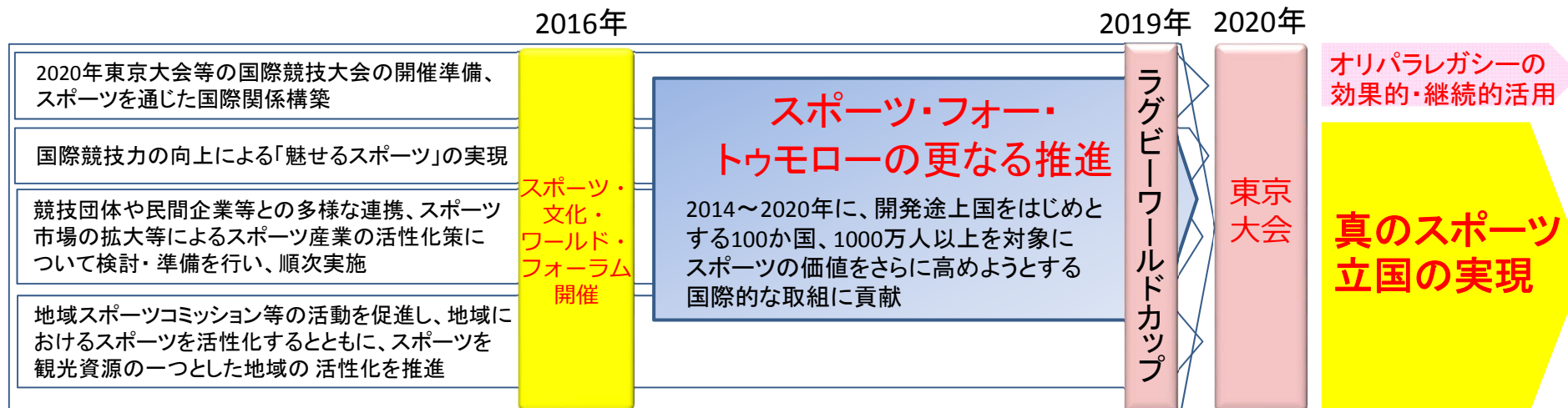
 ロームシアター京都

 東京会場

 ●六本木ヒルズ  ●国立新美術館  ●虎ノ門ヒルズ

## (参考)スポーツ立国の実現

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ2019等の開催を絶好の機会と捉え、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる「スポーツ立国」を実現するための様々な取組を実施。



### 2019年までに期待される効果

- 国・地方公共団体・民間企業等との連携促進によるスポーツ産業活性化
- オリパラムーブメント等による全国的な機運醸成、市場拡大の素地づくり
- 地域スポーツコミッション等による地域のスポーツ資源の戦略的活用や国際競技力向上による全国民のスポーツへの関心の向上

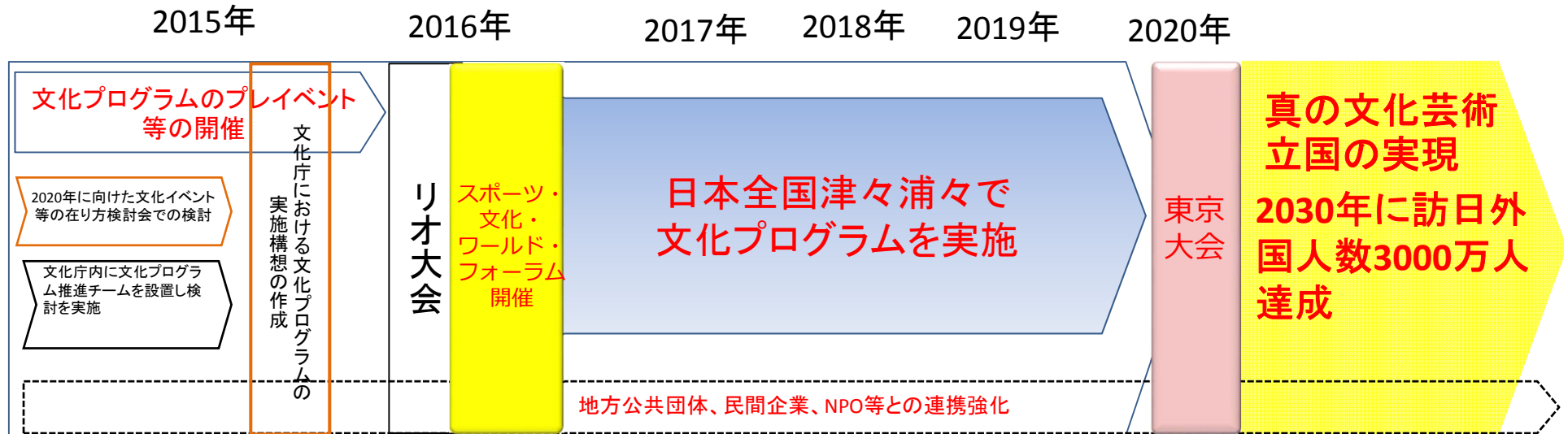
### 2020年に期待される効果

- オリンピック・パラリンピック東京大会等を目的とした訪日外国人を増やし、訪日外国人年間2,000万人達成に寄与する。
- オリパラ大会による日本全体の活性化に貢献する。(東京大会の経済効果:2兆9600億円(招致委員会試算(2012年)))
- スポーツ産業の市場拡大により、その経済効果の拡大を実現する。
- 国民的関心を向上させ、スポーツ実施率の目標を達成する。(成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(スポーツ基本計画(平成24年3月30日文部科学省策定)))

### 2020年以降に期待される効果

- 日本でのスポーツを求めて訪日する外国人の増加(2030年の訪日外国人年間3,000万人の目標達成に寄与)
- スポーツ産業・市場の成熟により、オリパラレガシーを効果的・継続的に活用しながら、スポーツ産業の経済効果の一層の拡大を実現する。

# (参考)文化芸術による未来創造



## 2019年までに期待される効果

- 地域の文化芸術を、国内外の人々を魅了する文化プログラムへブラッシュアップ
- 国・地方公共団体・民間企業・NPO等との連携促進(多様な主体による文化芸術振興)
- 自国や地域の文化理解の促進(魅力的な文化資源の再発見、能動的に文化芸術に関わる国民の増加(裾野の拡大)、文化資源の活用による社会課題解決等)
- 文化の相互理解の促進及び訪日外国人の受入環境整備等(外国人向けの説明・多言語化や文化資源の発信強化、多様な文化の理解等)

## 2020年に期待される効果

- 国内外を魅了する文化プログラムを実施し、訪日外国人2000万人に貢献
- ロンドンを超える史上最大規模の文化プログラムの実施  
ロンドンオリンピック(2012)の『文化プログラム』と2020年に向けて実施する文化プログラム目標(イメージ)(青字は東京五輪の目標)  
◆開催場所:英国全土で1,000箇所以上 → 全国で1,700箇所以上  
◆イベント総数:177,717件 → 200,000件  
◆参加アーティスト数:40,464人(うち6,160人が若手、806人が障害者) → 50,000人(うち10,000人が若手、1,000人が障害者)  
◆関係機関間の連携(文化芸術団体、教育機関、企業等):10,940件 → 15,000件  
◆総参加者数:約4,340万人 → 5,000万人
- 国内外の文化交流の促進

## 2020年以降に期待される効果

- 成熟社会の新モデルを提示・発信(様々な価値観を受け入れつつ独自の文化を形成した日本が、文化芸術の持つ多様な役割を提示し、積極的に世界に貢献)
- 自国や地域に関心と誇りを持つ国民の増加
- 文化芸術による地域活力の創出(文化資源の観光・地場産業等との連携促進や最先端科学技術の活用等による、成長戦略の加速化(雇用創出・経済振興等))
- 日本の文化を求めて訪日する外国人の増加(政府の2030年の訪日外国人の目標:3000万人)

## (参考)スポーツ立国の実現

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ2019等の開催を絶好の機会と捉え、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる「スポーツ立国」を実現するための様々な取組を実施。

### (1): 国内外へのオリンピック・パラリンピックの精神の浸透

- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会やラグビーワールドカップ2019などの国際競技大会や国際会議を通じた国際交流や地域活性化の促進
- ・**スポーツ・フォー・トゥモロー**によるスポーツ国際貢献の推進
- ・**オリンピック・パラリンピック教育**の全国展開



### (2): 健康志向の高まりや地域スポーツの活性化が及ぼす好影響

- ・「する」「観る」「支える」スポーツの多様な関わりを通じた**スポーツ参画人口の増大**
- ・スポーツを通じた健康な都市づくりの推進
- ・**地域スポーツコミッション**等の活動支援によるスポーツを観光資源にした地域活性化推進
- ・**障害者スポーツ**の普及促進
- ・学校と地域における子供のスポーツ機会の充実
- ・新しい時代にふさわしいコーチング・イノベーションの促進



### (3): トップアスリートの国際競技力の向上

- ・**国際競技力向上**に向けた**戦略的な選手強化**
- ・スポーツ医・科学、情報を活用したアスリート支援、研究開発
- ・ナショナルトレーニングセンター(NTC)、国立スポーツ科学センター(JISS)の機構強化



### (4): アスリートの社会的・国際的地位やスポーツ界全体の透明性・公平性の向上

- ・国際競技団体の要職ポストの獲得
- ・アスリートの「デュアルキャリア」と「引退後のキャリア形成」の両面から支援
- ・アンチ・ドーピングの推進や競技団体等のガバナンス向上

### (5): パラリンピックを契機とする人々の意識改革・共生社会の実現

- ・**障害者スポーツ**の普及促進(再掲)
- ・**オリンピック・パラリンピック教育**の全国展開(再掲)

## 2020年以降に期待される効果

- 競技水準の向上・地域スポーツ活性化により、**スポーツを「する」「観る」「支える」国民増加**
- スポーツ資源の活用によるインバウンド拡大**により、訪日外国人数年間2,000万人の達成に寄与

2020年に向けた取組と目指す姿

2020年に向けた取組:

魅力ある文化プログラムを、2016年リオデジャネイロ大会後から、4年間に渡り日本全国で大々的に展開

2020年以降の  
「真の文化芸術立国の実現」への基盤構築

我が国の文化を外国人が理解・体験するための取組を、観光庁と連携して実施することにより、訪日外国人の増加にも寄与  
(2020年に訪日外国人数年間200万人を達成)

目指す姿:

- ・国内外の様々な文化を理解し認め合う、**包容力のある社会を実現**
- ・文化芸術の持つ創造性により、**魅力あふれる社会の創出**
- ・**多様な主体の英知を結集**し、観光・地場産業等との連携や最先端技術の活用促進により**文化芸術が成長戦略の加速化を牽引**

実現に向けた具体的な取組

文化庁の取組

組織委員会、東京都、各府省等と連携し、**世界の人々を引きつける文化プログラムを創出するためのリーディングプロジェクトや支援を実施**

- ①: **組織委員会や東京都を含めた地方自治体と連携して、地域の文化イベント等を「文化プログラム」として全国展開。国内外に積極的に発信・強化**
- ②: **世界の人々を惹きつける「新しく、奇想天外な芸術」が生まれ、外国人が「ホンモノの伝統文化に触れ、訪日・周遊する」ための環境整備**  
→先進的な文化芸術イベント等を提案・実施し、文化芸術を社会課題の解決等に積極的に活用している自治体を「スーパークリエイティブシティ(仮称)」に認定し、全国で文化プログラムを実施する際の核とする。  
→能や陶器、祭りといった地域の伝統文化について、外国人がその価値を理解し、「本物に触れる」形で味わえるようにするとともに、地域自らが戦略的に取り組むための体制・基盤整備を支援するため、「伝統文化海外展開拠点(仮称)」を認定する。
- ③: **組織委員会や東京都と連携し、リーディングプロジェクトとしての世界の人々を惹きつける文化プログラムを主催**  
→国宝を利用し国内外のアーティストが一堂に会した芸術祭の開催、文化プログラムを全国展開するためのシンポジウム実施、官民協力して最先端技術を活用した文化芸術振興プロジェクトの展開。

地方公共団体・民間企業・NPO等の取組例

地方公共団体

- ✓文化プログラムの実施による地域活性化の実現
- ✓文化芸術創造都市を核とした、各地域での文化プログラムの実施
- ✓外国人が我が国の文化を分かりやすく理解できる環境の整備

民間企業

- ✓ファンド造成(例:企業メセナ協議会2021芸術文化による社会創造ファンド)
- ✓企業自身による文化芸術活動、文化資源の活用による経済循環
- ✓最先端技術を活用した文化芸術の振興

NPO等

- ✓各地域での文化プログラムの実施。アイデアの提案
- ✓継続的な文化振興の実施主体

事例:兵庫県立芸術文化センター

- ・**阪神淡路大震災からの復興のシンボル**。西宮北口駅再開発の中核施設として開館
- ・世界的な指揮者である佐渡裕芸術監督のもと、多彩な公演を実施。**公演入場者数は年間約50万人**
- ・開館以降、**西宮北口駅の乗降客数の増加や駅周辺人口の震災前水準への回復など、周辺の商業施設と一体となり地域に賑わい**を創出。**関西「住みたい街ランキング」では西宮北口駅が1位**
- ・**経済波及効果:145.4億円。雇用効果(兵庫県内):507人(H21年度)**

文化プログラムの展開

持続的・自立的な文化振興

社会課題の解決・満足度の増大

多様な主体の英知を結集